

直売所コンサルティングで売上増 JAあつぎ「夢未市」 探す楽しみあふれる売り場へ

生活課では直売所の売上強化を目的に、売り場のコンサルティングを行っている。3月9日、JAあつぎ農産物直売所「夢未市」の商品コーナーを一部リニューアル。新商品を100種類以上追加し、探す楽しみがあふれる売り場へ生まれ変わった。

コンサルティングにあたっては、新商品の持ち込みだけでなく、売り場の環境や組合員・消費者ニーズまで踏み込んだ提案を行っている。具体的には、環境分析、売上実績のABC分析を行い、それらの結果から取扱商品の取捨選択を実施。そして、大手スーパーで行っている「棚割」の概念に基づき売り場のレイアウト・新規取扱商品を決定し、その売上検証まで生活課が伴走支援をしている。

夢未市では陳列商品の密度や、近隣スーパーでも取り扱っていた商品や地域の関係が薄い加工品の取り扱いを見直した。結果、他店では買えないこだわりの逸



パンコーナーをはじめ、店長手作りの装飾が店内のいたる所でみられる



リニューアルした売り場を紹介する清田店長

品を少しずつ楽しめるよう、ドレッシングや調味料を中心に100種類以上の新商品を導入した。来店客からも「商品が増えて探す楽しみができた」とうれしい声があがっている。

リニューアルした商品群の3月売上点数は前年度比で179%。金額ベースでは161%にのびた。アイテム数が増えたことによる作業増加の改善や、商品密度の維持に向け、生活課は引き続きサポートしていく考えだ。

夢未市の清田陽平店長は本取り組みについて「『この商品は売れる』という感覚を数字でとらえることができ、既存で取り扱っている商品について売れる・売れないといった基準をつくることができた。全農がアフターケアまでしっかりしてくれるのはありがたく、推進担当者ともより気持ちよくコミュニケーションが取れるようになった」と取り組みの効果を評価した。

県施設野菜共進会 最高賞が決定

■立毛の部

農産総合課が事務局を務める神奈川県施設野菜組合連合会は、2月28日から4月5日までの期間で、計5日間、県施設野菜共進会「立毛の部」を開催。収量や整枝状態、生育状態などを厳正に審査した。

今年3月は気温が低い日があり、例年に比べて低温障害が見られた圃場が多かったようだ。「その状況の中でも、きめ細やかな管理をしている生産者が上位に集まっている」と県農業技術センター普及指導部田村律子野菜課長は今年度の審査の印象を話した。

また同課長は「県内の施設野菜生産者は販売先に合

わせた品種を選択し、品種特性に応じた適切な栽培管理により作りこなしていると感じる。引き続き収量確保と品質向上のために基本的な栽培管理の徹底をお願いしたい」と呼びかけた。

	氏名	品目	支部名
農林水産大臣賞	和田 浩明	トマト	藤沢
神奈川県知事賞	吉川 猛	キュウリ	平塚
	武藤 登美夫	トマト	平塚

■野菜の部

4月7日には同共進会「野菜の部」が県農業技術センターにて開催された。

トマト61点、キュウリ60点の計121点が出品され、色、形状、揃いなどを厳正に審査した。

「トマトは形状が揃い、色むらが少なく、果形も良い、レベルの高いものが多く出品されていた。キュウリは一部に天候不順による形状不良があったが、全体に着色が良好で、特に形状の揃いが良くボリュームやつやを感じられるものが上位に並んだ。昨年に比較すると品種のバリエーションを感じた。」と県農業技術センターは講評した。

	氏名		支部名
神奈川県知事賞	山崎 真一	キュウリ	平塚
	持田 裕輝	トマト	川崎



雑草管理に係る軽労化を目指して ラジコン草刈機実演会を実施

東部農機センターきたセンターは4月12日、「ラジコン草刈機実演会」を横浜市内の生産者圃場にて開催



した。現在、斜面の雑草管理は刈払機や手作業で行われることが多く、作業安全上の課題がある。本実演会は軽労化に向けた課題解決支援を目的に行われ、管内の生産者ら9名が参加した。

当日はやまびこジャパン株式会社による最新型のラジコン草刈機RCM530の

実演が行われた。プロポ（送信機）で簡単に操作でき、斜面は最大45度まで走行可能。実際に操作した生産者からは「使い勝手が良い」と好評であった。

同センターによるこのような情報発信型の実演会は昨年夏から継続して行われており、今回で4回目となる。事務局を務めた佐久間勝徳所長は「組合員への推進活動のあり方を模索する中で実演会という手法をとった。特に農業機械はカタログでは伝わらない体験・体感を得て、購入を判断できる良い機会となっている。今後も品目・作型などに応じた機種を検討し、こうした実演会を増やしていきたい」と話した。